

まるざ

—女も男も ともに輝く 社会へ—



■平成20年度男女共同参画週間 石垣市主催事業「標語コンクール」

最優秀作品

ひと ひと
「男と女 心一つに和で拓く 豊かな未来」

(多良間 明美)

発行／石垣市総務部広報広聴課男女共同参画係

〒907-8501 石垣市美崎町4番地

0980-82-9911 (代)

0980-82-1243 (直)

No.29

2009年 春季号

題字：小底みずき

表題絵：八重山高等学校美術部

～男女共同参画行政 2008～

石垣市男女共同参画推進条例を

平成21年3月23日に制定しました。

条例を制定すると

1 男女共同参画行動計画「第2次いしがきプラン」の実行性のある男女共同参画社会の実現に向けた強い意思表示ができます。

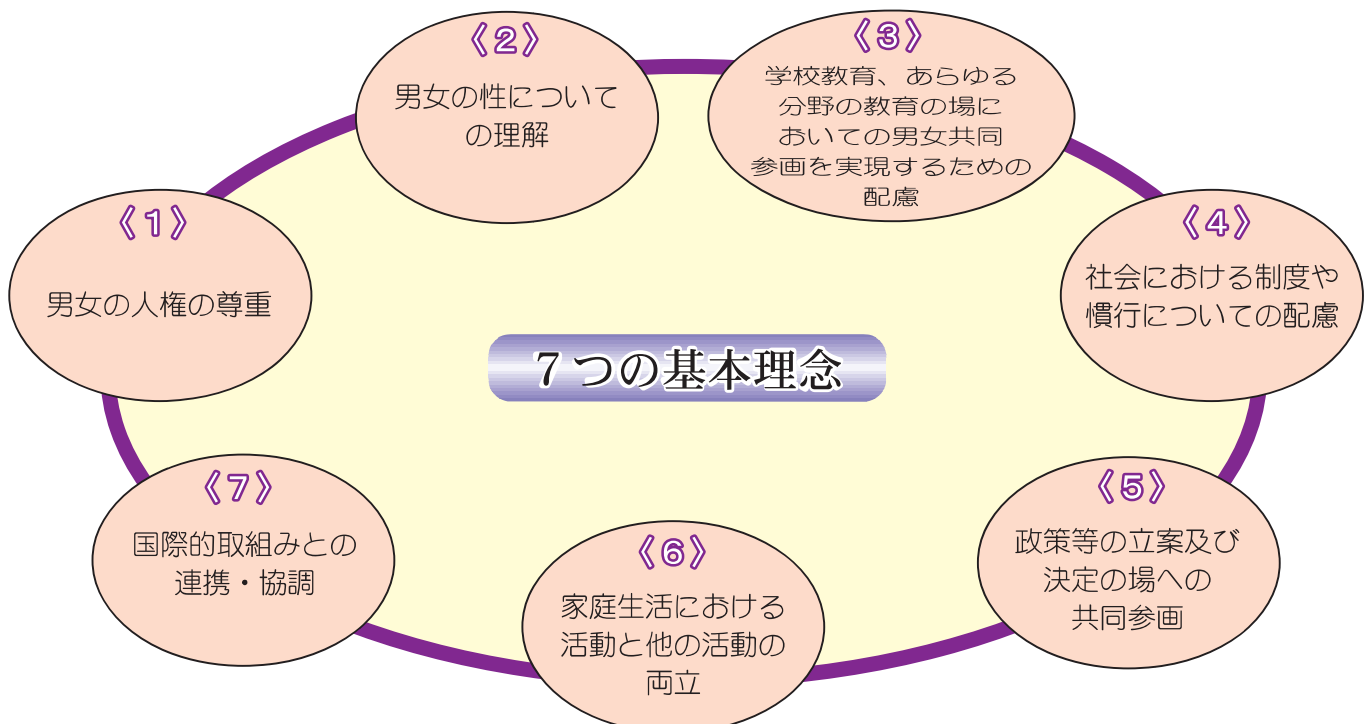
2 男女共同参画社会の形成に向けた取組みは、行政だけで推進できるものではなく、条例を制定することにより、市、市民、教育関係者及び事業者等の責務を明確にし、相互に協働することで、一体的な取組みができます。

3 男女共同参画の推進を図る施策に法的根拠ができることにより、施策をより強力に推進することができるとともに、各種施策に男女共同参画の視点を反映させることで総合的に推進することができます。

4 条例の制定過程を通じて、男女共同参画への市民意識の高揚が一層図られるとともに、理解を深めることができます。

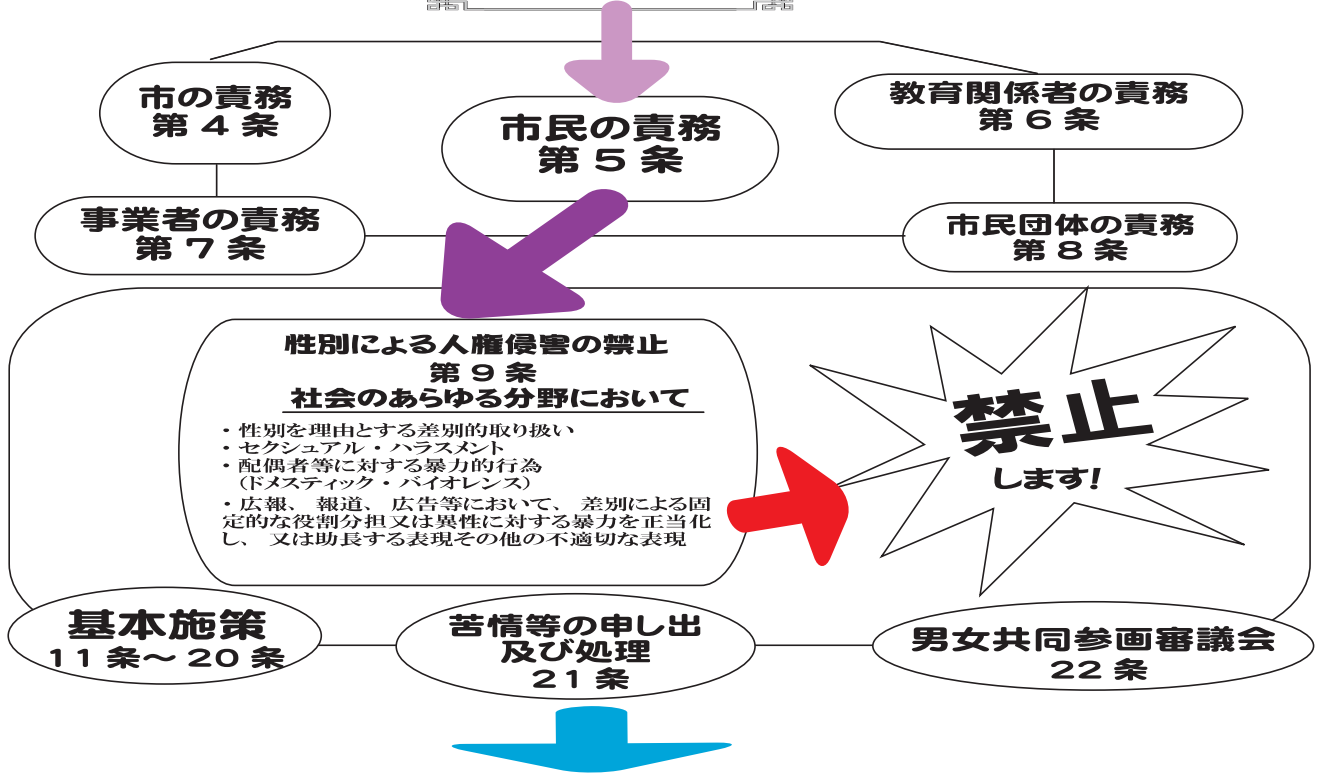
4月1日付け公付・6月1日から施行されます。

男女共同参画を推進するため基本となる考え方を決めました



条例のしくみ

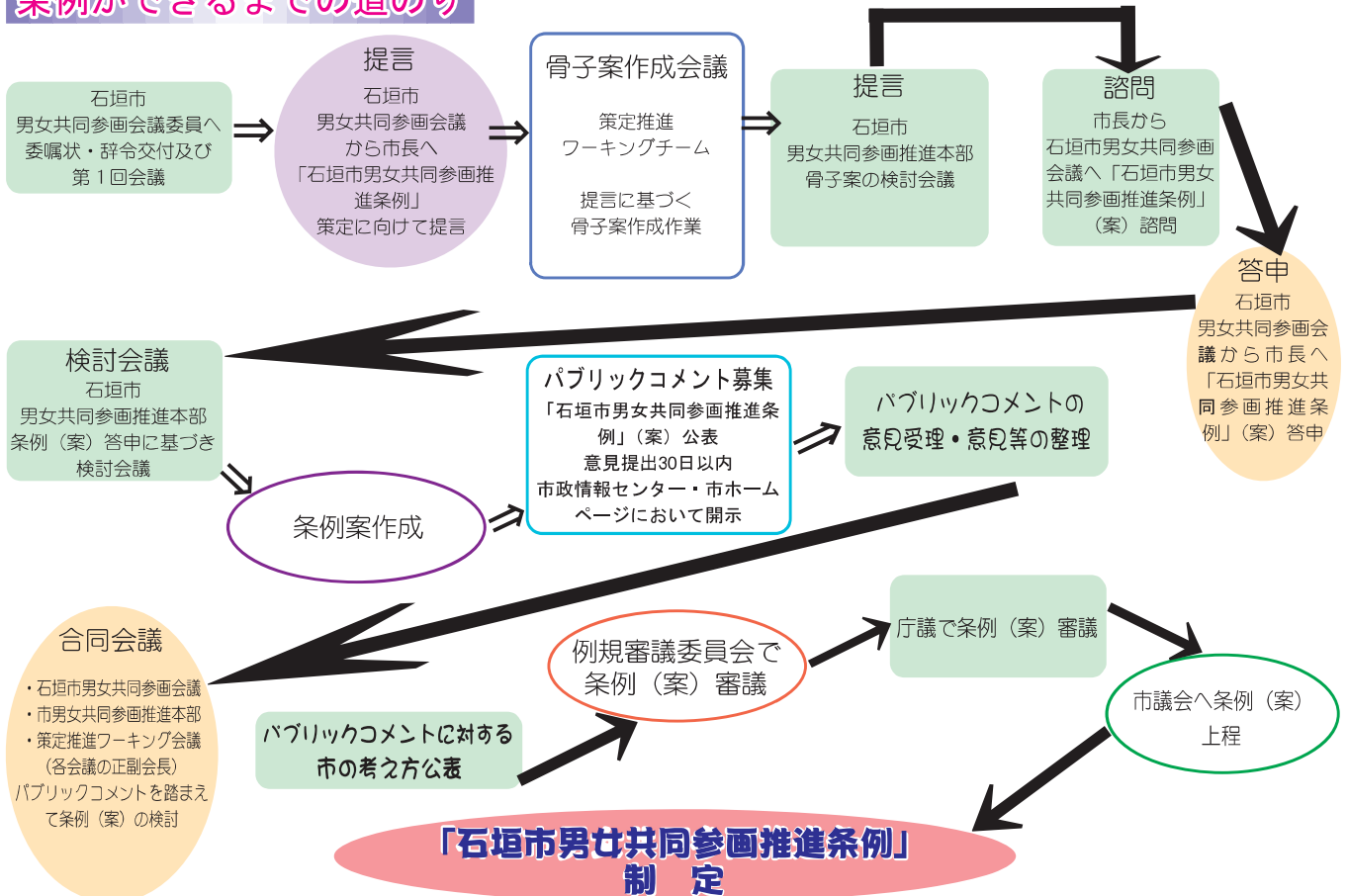
基本理念 第3条



男女共同参画社会の実現

※条例の全文は、ホームページで見ることができます。

条例ができるまでの道のり



男女共同参画講座2008

沖縄県女性海外セミナー（女性の翼）研修報告



小底拓子 さん

とき
平成21年3月2日(月)
ところ
石垣市健康福祉センター2階
(視聴覚室)
訪問地:ベトナム
期 間:平成 20年9月23日
~27日



米盛初恵 さん

事業目的：本県の女性を海外に派遣し、公的機関、女性の社会活動、教育、労働、福祉等の視察研修を通じて、男女共同参画の実現を図り「平和で活力に満ち潤いのある沖縄県づくり」に貢献する女性リーダーの育成及び資質の向上を図ることを目的に行われます。

主催：沖縄県女性の翼の会 共催：（財）おきなわ女性財団 後援：沖縄県

研修地—ベトナム女性の地位の向上のための「国会委員会」、女性の権利と貧困撲滅を目標に設立された「ベトナム女性連合」、家族と性別研究センター等を訪問。

独立宣言から33年。社会主義を基軸に平和・独立・民主主義を掲げたドイモイ（刷新）経済は、米国をはじめ仏、中国、台湾、日本、韓国等出資合併企業で新興国家へと成長する光の部分と、その一方で53の少数民族や地上戦の後遺症である枯れ葉剤や不発弾の被害が大きい山岳地帯の農民など、影の部分「貧困」は見過ごせないキーワードになっていることを強く感じた」と小底さんは報告した。

また、「創造した以上に深刻な問題が山積で長期的な取組みが必要な現実に直面していると感じたこと。戦争復興に母である女性たちが立ち上がり、平和を訴え続けたという話などは、沖縄と大きな共通点を見た気がした。感想をまとめることは、容易ではないが、唯一の希望は、貧しくても子を産み育て教育を受けさせたいと必死で働くベトナム女性たちが大勢いること。また、ベトナム女性連合や関係機関の今後の取組みに期待を寄せたい」と米盛さんは閉めくくった。

（研修報告は、八重山毎日新聞2008年1月27日～30日掲載）

講演会

テーマ 「今、私たちにできることは何だろう？」



～女も男も ともに輝く社会へ～

講師：比 嘉 京 子 氏

沖縄大学非常勤講師

食文化をとおして「食の大切さ」を栄養面、食生活の観点からお話ししキーワードは、家族、家庭、家事労働、子育て、教育、健康、睡眠、食事、食卓、自己管理について。

特に、**子育て**

- ①三つ子の健康百まで・・・例外なき生活のリズムになっていること。
- ②世界で一番眠りが少ない日本の子・・・ホルモン・神経の異常
- ③子どもの情緒安定は母親の心の安定に比例
- ④母親の心情を左右する父親の役割
- ⑤「子育て」ほど崇高な仕事はない・母親・父親は女性・男性のモデル

食育

- ①なぜ今、食育なのか・・・知・徳・体育のベースに食育が必要
- ②食であなたの人生が決まる
- ③地産知消の推進・・・これからは農業だ
- ④食文化をみつめ直そう
- 満ちた⑤食卓で育つ家族の絆等、有意義な講演会でありました。

市民のつどい



講演会

テーマ 「男女がともに参画するまちづくりをめざして」 ～推進条例制定～

講師: 大城貴代子氏 元沖縄県文化環境部長
平成21年3月21日 石垣市健康福祉センター検診ホール

条例制定を前に意識の啓発・周知を図ることを目的に「市民のつどい」を開催しました。講演に先立ち、八重山高校カラーガード部による演舞により、場内に新風と若い息吹が満ちた中で講演会を開催しました。

講師は、「なぜ今、共同参画なのか」と、切実な世相、現状、身近な事例を取り上げ、分かりやすい説明、また、条例制定の暁には、市、市民、教育関係者等が、それぞれの責務を分かち合い、条例を主役として、共同参画に対する強い見方になることを強調されました。また、県内市町村の現状を踏まえ、今後の重要な課題として、男女共同参画施策の指標のアップ、委員や審議会への女性の参画、政策決定の場への参画促進等を提言されました。

受講者から、

「今まで色々な重要な役割はほとんど男性の方が多かったが、やはり男女共同参画することによって、女性からの見方や意見をもっと取り入れ女性の負担を少しでも軽く共同で生活していけるようになるといいですね。貴重な講演でした。」

「思ったより男性の参加が多くてよかったです。意識ある男性が増えていることは、大変喜ばしいことだと思う。」

「何もわからないので勉強して頑張りたい」

「女性も遠慮せずに前に出て手を上げて行けたら良いと思う」等、数多くの感想がありました。

女性団体支援

石垣市女性団体ネットワーク会議主催の、第11回まるごーフェスティバル実行委員会を立ち上げ、今回は、市内の29団体で結成された実行委員会で、数回にわたる会議を開催しました。



オープニングセレモニーには、石垣字会ユンタ保存会有志による、手仕事をしながらユンタの合唱、登野城字会ユンタ保存会による地引きをしながらのユンタの合唱などで盛り上げていただきました。

講演会

テーマ「やいま女性学事始」

講師：勝方＝稲福恵子 氏

早稲田大学国際教養学部教授
(旧具志川市出身)
早稲田大学「琉球・沖縄研究所」所長



上映会「イザイホー」

監督 野村 岳也 氏



「かがやき 響き合う やいまの女 (みーどうん) 男 (びぎどうん)」をテーマに八重山の女性団体が一堂に会して日頃の活動を展示、実演によるワークショップの発表、講演会や上映会等を行いました。

初日に、「やいま女性学事始」と題して講演会、続いて久高島の神事の記録映画「イザイホー」の上映がありました。

講演会で、勝方講師は、女性学について「平等とは何か。女性が男並みになることではない。女性が自分らしさを発揮し、幸せになれる基盤をつくること」と定義、最先端のフェミニズムや女性学は、人間がみんな幸せになるようにという学問」と強調しておられました。

久高島は昔から神の島として知られ、今でも島人によって厳粛に受け継がれている。この久高島の最大の神事が、12年に一回午年に行われる「イザイホー」である。これは、1966年の記録映画である。「イザイホー」はその後一回行われ、1978年を最後に消滅した。

活動紹介



◆◆◆◆◆ がんばっている人たち ◆◆◆◆◆



おめでとうございます



唐真 佑子 氏

昭和42年、八重山保健所大富駐在所を皮切りに、(手始めに)通算38年間の地域住民に密着した活動、健康教育等を実践してきました。特に、復帰後の乳幼児一斉検診、発達検診、遺伝相談等の実施、障害児親の会の誕生、思春期教室ピアカウンセラーの育成等、八重山での母子管理体制が評価されての受賞の運びとなりました。これらを築き上げてきた関係者・機関等の協働の成果に感謝したいと述べておられました。



多宇 司・明子ご夫妻 夫妻連名天皇杯受賞(畜産部門)

第47回 農林水産祭参加表彰行事にて受賞



八重山地区では家族協定第1号(5組中)である。子どもは、玄関の掃除、靴並べ、トイレの掃除等、家族全員でやるんだよという約束ごとからはじまった。

天皇杯を受賞しての喜び・・・

「平成20年7月に第12回全国草地畜産コンクール農林水産大臣賞を夫婦連名受賞したので、大変うれしかったが、日本の頂点といわれる天皇杯の栄誉にしかも「天皇杯を夫婦連名で受賞」することになり、夢にも思わなかったので、飛び上がるほどに嬉しかった。受賞候補に挙がったとき、農林省役員が現地入りし、10名の審査委員の聞き取り調査、経理、現場調査が数回にわたり行われた。」

今後の抱負

「家族協定を結んだことが大変良かった。役割分担が良かったし、お互い責任を持たせたことが良かったと思うし、責任を持たればやりがいも違ってくる。」

今回の賞は大変大きすぎて恐縮しているが、がむしゃらにがんばって結果を残してきたことだけに喜びはひとしおであった。今後は、牛生産、海岸沿いでの観光資源の活用、自分の牛を利用したレストラン経営等、一環経営ができたらと思っているし、家族でリフレッシュタイムを設けスキーに行ったり、観光したりして家族の絆を深め、今後も頑張っていきたい。空港ができればますます夢拓くようにがんばっていきます。」と自信のみなごった笑顔が印象的でした。

明子さんは、「子牛はかわいい。」と笑みをうかべていました。

表紙解説

「まるごー」とは、八重山方言で円座を意味する。老若男女関係なく、円座になって情報を交換したり、未来を語り合うことを象徴して命名されました。

題字は、八重山高等学校書道部の小底みずきさんと、沖縄県高等学校席上揮豪大会で特別賞 丸正賞を受賞しております。

表紙の石垣市男女共同参画推進条例「概要版」冊子の絵は、八重山高等学校美術部の提供によるもので、若者が共に歩み手を取り合い未来に向かって進んでいくイメージを表現しているようです。